

「ジオネットの日」開催報告

川辺禎久・兼子尚知（産総研 地質調査総合センター研究戦略部），吉田清香・利光誠一・酒井 彰・芝原暁彦・宮内 渉・朝川暢子・平林恵理（産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター），渡辺真人・中澤 努・住田達哉（産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門）

2015年3月1日に「ジオネットワークつくば」主催「ジオネットの日」イベントが開催されました（写真1）。このイベントは茨城県つくば市地域での地球環境科学への興味・関心・理解を高めることを目的に「ジオネットワークつくば」の活動紹介と地球環境科学に関連する体験型の催しを実施するものです。

「ジオネットワークつくば」は、産総研が主体となって平成21年度に発足した、つくば地区に立地する各機関・自治体が連携して地球環境科学に関するアウトリーチ活動を行うためのネットワークです。当初は科学技術振興機構（JST）支援事業として発足しましたが、支援が終了した平成23年度末以後も、つくば地区の地球環境科学に関するアウトリーチ活動の情報共有および情報提供のためのネットワークとして活動しています（及川ほか，2012）。

今年の「ジオネットの日」イベントは、つくばエキスポ

センター1階イベントスペースで、筑波大学地球学類「ジオネットアース」による地震発生模型，地図記号パズル，開発前のつくば周辺ジオラマ模型，岩絵の具でのお絵書きなどの展示，産総研地質標本館からは筑波山の地質砂絵と筑波山クレイモデルの作製コーナーが設けられました。砂絵作製コーナーでは筑波山地域ジオパーク推進協議会からも3名の方にお手伝いいただきました。会場のつくばエキスポセンター構内に使われている石灰岩石材中の化石を探す「エキスポセンター館内化石さがし」は、エキスポセンターと地質標本館との共同で開催しました。また館外イベントとして行われた「つくばセンター石めぐりツアー」は、つくばセンター地区に使われている様々な石材を産総研職員の解説付きで巡るものです。このほかに筑波山地域ジオパーク推進協議会によるジオパークパネル展も関連イベントとして同時開催されました。



写真1 エキスポセンター館内化石さがしの様子。

当日は曇時々弱い雨が降るといった天候だったため、通常の日曜日よりは来館者は少なかったようですが、それでも95名以上の方に体験イベントに参加していただきました。「石めぐりツアー」は小雨のため午前の1回だけ、参加者も1名のみでしたが、産総研職員2名が説明に付くという贅沢なツアーとなり、参加した男性からは、普段見慣れている街の風景にこんなに地球のことが隠れているとはとても驚いたし、わかりやすく面白く見てまわられたとおっしゃっていただきました。「館内化石さがし」は15名ずつ3回行われました。ヘルメットとヘッドライトをつけて雰囲気を高めた参加者は、床や壁に貼り付くように化石さがしに熱中し(写真1)、参加者以外の来館者の皆さんもつられてのぞき込む姿が見られました。筑波大学ジオネットワークが実施した、何歳の時にどこに住んでいたか日本地図上にシールを貼るコーナーは、多くの参加者が昔話をしながらシールを貼っていたのが印象的でした。

参加していただいた方には、簡単なアンケートに回答していただきました(回答率約26%)。「楽しかった」「また

やってみたい」と非常に好意的な回答が多く寄せられました。また、要望としては「化石さがし」の定員や回数をもう少し増やして欲しいなどのご意見がありました。人員手配や他の催物の関係もあり難しい点もありますが、少しでも多くの方に参加していただけるような方策を考えてみたいと思います。認知度アンケートでは、産総研地質標本館は7割以上の方が知っていたと回答されましたが、ジオネットワークつくばや筑波山地域ジオパークについては2割以下程度の認知度しかなかったことがわかりました。まだまだ認知度が低い状況は反省点ですが、このイベントですしでも認知度が上がったのであればうれしく思います。

文 献

及川輝樹・佐藤由美子・宮崎光旗・芝原暁彦・渡辺真人・中澤 努・利光誠一・吉田清香・酒井 彰・渡部芳夫(2012)2012年「ジオネットの日」開催報告. GSJ地質ニュース, 1, 283-284.

新人紹介



細井 淳 (ほそい じゅん) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 (地殻岩石研究グループ)



2015年4月から地質情報研究部門地殻岩石研究グループに任期付研究員として配属されました、細井 淳と申します。学部から博士課程まで茨城大学で学び、今年3月に学位を取得しました。

私は東北日本に分布するグリーンタフ(古~新第三系)を対象に研究しています。野外地質調査をベースに層序学、堆積学、古地磁気・岩石磁気学、構造地質学など様々な手法を駆使し、日本海拡大期前後の古火山活動や堆積盆発達史の詳細解明に努めてまいりました。

4月からはこれまでの研究を活かし、グリーンタフ分布地域の地質図幅整備を行います。まずは任期期間中に秋田県の「角館」地域の5万分の1地質図幅を作成いたします。

グリーンタフの研究は正確な層序、年代を確立した上で行うことにより、従来見えてこなかった新しいことが沢山わかってきます。これはどのような研究手法でも新しいことがわかると考えています。産総研には様々な専門の方がいらっしゃいます。皆様から様々な研究や手法を勉強させていただき、またお互いに連携して研究を実施することができますと幸いです。

何卒よろしくお願いたします。

知っていますか 地質情報展 2015 ながの

信濃の大地

2015年 9/11(金)・12(土)・13(日)

時間 9:30～17:00 (13日は、16:00終了) 入場無料

会場 長野市生涯学習センター(TOiGO WEST 4F)
長野市大字鶴賀問御所町 1271-3

長野県および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・火山・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に“展示・解説”します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな“体験学習コーナー”を用意しており、実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展 2015 ながの」にご来場ください。



市民講演会(主催:日本地質学会)

「信州の自然とともに生きる
—地震と火山の防災地学—」

日時:2015年9月12日(土)
14:30～16:00

会場:ホクト文化ホール
(長野県県民文化会館)

「信州の火山を知ろう」
三宅康幸(信州大学理学部教授)

「糸静構造線活断層地震が起きたとき、
長野盆地・松本盆地の震災は」
塚原弘昭(信州大学理学部名誉教授)

連絡先:日本地質学会事務局
03-5823-1150



主 催: 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
一般社団法人 日本地質学会
共 催: 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会、苗場山麓ジオパーク
振興協議会
後 援: 長野県、長野県教育委員会、長野市、長野市教育委員会、NHK長野
放送局、信濃毎日新聞社、ながの観光コンベンションビューロー、
全国地質調査業協会連合会、日本ジオパークネットワーク
展示協力: 戸隠地質化石博物館、信州新町化石博物館、野尻湖ナウマンソウ
博物館、大鹿村中央構造線博物館

【問い合わせ】

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報展開催事務局
Email: johoten2015jimu-ml@aist.go.jp / TEL: 029-861-3540
URL: <https://www.gsj.jp/event/2015fy-event/nagano2015/>

「地質情報展 2015 ながの 知っていますか信濃の大地」は、平成27年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。